



# 国立公園満喫プロジェクト先行8公園を中心とした取組状況と今後の予定

## 民間活用によるサービスの向上

- ① 公共施設の民間開放
- ② 多様な宿泊サービスの提供
- ③ 民間事業者等との連携

## 国立公園の質の磨き上げ

- ④ コンテンツの磨き上げ・受け入れ体制強化
- ⑤ 引き算の景観改善
- ⑥ 基盤整備
- ⑦ 利用者負担による保全の仕組みづくり

## プロモーション（⑧）

# ① 公共施設の民間開放

環境省が所管する土地・建物の使用許可期間の延長（3年→10年に改訂）

## ○カフェの設置等による快適性向上

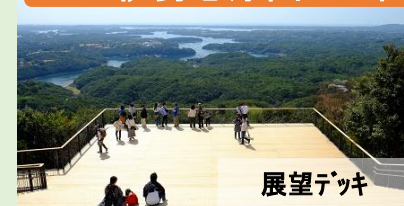
- ・ 川湯ビジターセンターにおいて、民間カフェやツアーデスクの導入などコミュニティスペースの充実に向けた再整備を実施中。（H31オープン予定）

阿寒摩周国立公園



- ・ 英虞湾の景色を一望する横山展望台の再整備とあわせ、民間のカフェを導入。（3月末展望デッキ供用開始。8月展望休憩所、カフェオープン）

伊勢志摩国立公園



- ・ 南阿蘇ビジターセンターにおいて、眺望を障害していた樹木の間伐を行うとともに、木製デッキを整備し、民間のカフェを導入。（10月オープン予定）

阿蘇くじゅう国立公園



- ・ 阿嘉島に3月オープンしたさんごゆんたく館において、セルフサービスのカフェコーナーの導入を検討中。（7月より民間による試行を開始）

慶良間諸島国立公園



今後、先行事例の検討経緯や留意点等を整理しガイドライン等として共有することで、検討の加速化、実績拡大を図る。

## ②多様な宿泊サービスの提供

日光国立公園  
阿蘇くじゅう国立公園

### 民間企業と連携した国立公園グランピングの実施

- ・民間企業と連携し、国立公園内の雄大な風景の広がる空間でグランピングを実施予定

#### <連携予定企業>

##### ・株式会社スノーピーク

- －大手アウトドア用品メーカー。2017年より白馬の山麓で自社製品を用いて、地域の食や体験を提供するグランピングをプロデュース。
- －秋頃に阿蘇くじゅう国立公園で実施予定



写真：(株)スノーピーク

##### ・株式会社Wonder Wanderers

- －2017年より、週末を中心に会場を移動しながら、アウトドアでホテル並みのサービスを提供する「旅するアウトドアホテル“The Caravan”」の事業のほか全国各地の遊休地活用の企画立案～運営を展開。
- －9月に日光国立公園で実施予定



写真：(株) Wonder Wanderers webサイトより

### ③ 民間事業者等との連携

#### ○新規バスの運行等

- 指宿港から根占港に到着する高速船に合わせ、佐多岬や雄川の滝を巡り、各スポットで1時間程度滞在できる周遊バスを運行。平成29年度は南大隅町による実証運行、平成30年度からは地元バス会社が共同運行開始。（佐多交通・二川交通）

#### 霧島錦江湾国立公園



#### 阿寒摩周国立公園

- 釧路空港と阿寒湖温泉を結ぶバス「阿寒エアポートライナー」を実証運行。H29期間中（H29.7～H30.3）3,631人の利用者があり、うち外国人利用者は1,371人（全体の36.3%）。H30は4月から運行中。（阿寒観光協会まちづくり推進機構）



#### 十和田八幡平国立公園

- 七戸十和田駅と奥入瀬溪流・十和田湖畔を結ぶシャトルバスを夏期・冬期に運行中（冬はH28開始）。H29年度冬期は前年度比利用者4倍、外国人利用者4割程度。（七戸十和田奥入瀬シャトルバス運行協議会／十和田市）



#### ○二次交通の利便性向上

#### 大山隠岐国立公園

- 大山隠岐国立公園を含む山陰のバス情報・フェリー情報を含んだ乗換え・ルート案内について、jordanとgoogleマップ上で検索ができるよう、二次交通情報を一元化。8カ国語に対応。（山陰インバウンド機構／中国運輸局）



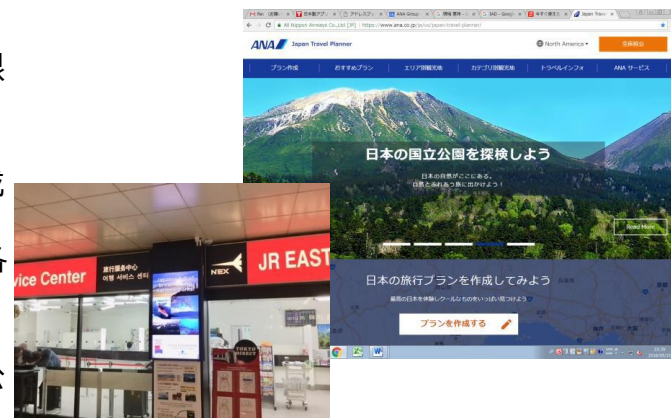
### ③ 民間事業者等との連携

#### ○オフィシャルパートナー等との連携

- 国立公園の魅力を世界に発信する国立公園オフィシャルパートナーシップを49社と締結。締結企業による取組を継続して実施中。
- 6月に新規締結した18社は、ランドオペレーター、地方銀行等の新たな分野に拡大するとともに、メディアなどの分野を充実。

#### ※取組例：

- 地方銀行による地域のアクティビティ事業者のキャッシュレス化支援（肥後銀行@阿蘇くじゅう）
- 国立公園と連携したスタンプラリーイベントの実施（山と渓谷社@大山隠岐）
- 鉄道・旅行会社と宿泊施設が連携した国立公園誘客プロモーション、商品造成（休暇村協会、JR東日本、JTB）
- ANA訪日外国人向け旅行プランニングサイトにて国立公園特集を配信ほか、各社オウンドメディアにおける発信
- 国立公園をテーマにした旅行商品の造成の継続（日本旅行）
- 空港待合スペース、成田エクスプレス車内、訪日旅行センターにおける国立公園プロモーション動画の放映（中部国際空港、羽田空港、JR東日本）



- 引き続き、新規締結の調整を進めるとともに、国立公園と企業、企業間の連携による取組推進に向けた事務局の設立を準備中。

### ○ファムトリップの継続実施

- ・地元自治体や観光協会、広域DMO、コンテンツ事業者等と連携し、磨き上げを行うためのファムトリップを行い、強化・改善点等について聞き取りを実施。  
(昨年度は秋～冬、今年度は春～夏のコンテンツに注力)
- ・インバウンドに強い旅行会社やメディア、ブロガー等を招聘し、マッチングやプロモーションにも寄与。
- ・今後、観光庁と連携し、通訳案内士を活用した体験プログラムの開発を進める等、多言語対応可能な受け入れ体制強化に努める。



### ○ファムトリップの成果を踏まえた誘客に向けた取組

#### 【旅行会社やメディア等との情報交換会】

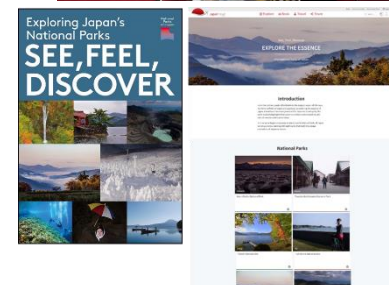
- ・8公園の魅力やコンテンツを紹介し、具体的な商品造成やプロモーションに向けた情報交換会を開催（大阪、博多、東京）。

#### 【訪日前の外国人に向けたPR】

- ・Japan Travelにおいて各公園の魅力を紹介する特集Web記事を作成し、Trip advisorから誘導を図った。

#### 【訪日後の外国人に向けたPR】

- ・さらにPRのための冊子を8万部作成し、国際空港等、ゴールデンルート沿いの外国人が立ち寄るポイントに配置した。



## ④ コンテンツの磨き上げ・受け入れ体制強化

8国立公園

### ○コンテンツ集の作成（9月完成予定）

- ・コンテンツ事業者とエージェント等とのマッチングや各種プロモーションのため、BtoB用のコンテンツ集を作成中。
- ・日本の国立公園ならではの体験コンテンツ、並びに、外国人旅行者にとって現実的な二次交通を組み合わせたお勧めモデルコースを掲載。



作成イメージ

### ○誘客力の強化

#### 【コンテンツ事業者と旅行会社等とのマッチング機会の創出】

- ・コンテンツ集を活用して、ツーリズムEXPOジャパン2018（9月20～23日）にて、国内外バイヤーとのマッチングを実施。
- ・マッチング成果を上げるため、コンテンツ事業者への事前勉強会なども開催予定。
- ・国内外のOTA（オンライン・トラベル・エージェント）とのマッチングも支援。

#### 【誘客キャンペーンの検討】

- ・2019ラグビーW杯、2020オリパラに合わせた誘客キャンペーンについて、オフィシャルパートナーなどの協力を得ながら検討。

### ○受入の能力向上

#### 【国立公園を含む地域コンテンツ情報の一元化の促進】

- ・多言語によるコンテンツ情報の集約、予約管理システムの一元化、ニーズにあった楽しみ方を提案できる多言語対応ツアーデスク・コンシェルジュの設置等を促進。



## ⑤ 引き算の景観改善

### ○長者原地区における景観改善

- ・九重連山登山利用の拠点である長者原地区のビジターセンター前の園地において、環境省の再整備とあわせ、眺望の阻害となっていた電線・電柱を九州電力が移設。(修景伐採は環境省が実施)  
(H29.11完了)



阿蘇くじゅう国立公園

### ○三瓶山地域における景観改善

- ・三瓶山地域（東の原園地）において、市営スキー場跡地施設を地元自治体が改修して民間事業者に提供し、事業者は新たな地域の魅力となるワイナリー設備や葡萄畑を整備。
- ・H30に地元自治体が周辺の廃屋を撤去し、跡地に事業者が新たに関連施設を整備予定。

大山隠岐国立公園



ワイン醸造施設や売店として再生

### ○休屋集団施設地区における廃屋対策

- ・観光拠点である休屋休平の廃屋撤去の加速化に向け、弁護士による支援業務により、権利関係の整理、優先順位付け等を実施。(対応方針が定まった物件から順次、建物収去土地明渡訴訟等の手続を開始)

十和田八幡平国立公園



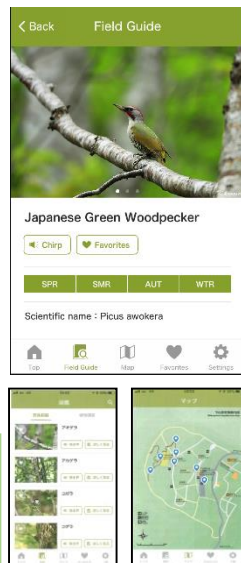
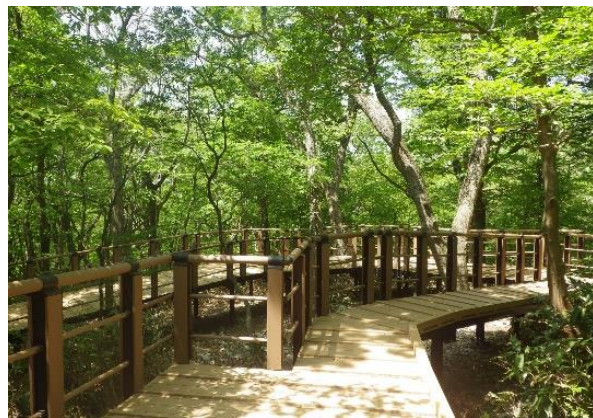
イメージ

## ⑥ 基盤整備

### ○大山森の遊歩道のICT整備

#### 大山隠岐国立公園

- ・ブナ・ミズナラ林内に位置し、木肌に触れることができるほか、野鳥観察に適した木道「**大山森の遊歩道**」を供用開始
- ・大山の野鳥・植物情報や自然解説をビコンと連動して多言語で提供する**携帯アプリ「大山自然図鑑」**を開発



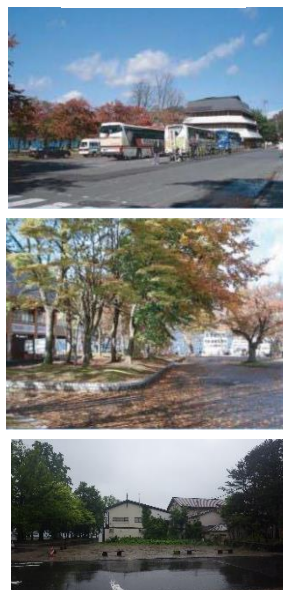
日英中韓で野鳥/植物図鑑/自然解説情報を提供

### ○休屋園地 広場へのリニューアル

#### 十和田八幡平国立公園

- ・十和田湖遊覧船乗り場前の通路を広場にリニューアルし、供用開始
- ・十和田湖を臨む開放感ある景観を創出した**活動拠点**、地域と観光客との**交流拠点**としての機能を強化。

#### 整備前



#### 整備後





# ⑦ 利用者負担による保全の仕組みづくり



## ○オオサンショウウオ観察ツアー

大山隠岐国立公園

日野川源流域の里山において、行政・研究者・地域住民・事業者で連携したオオサンショウウオの保全活動に貢献するツアープログラムを一般向けに開始。



- ・ 4月より**一般提供開始**
- ・ 5月に**外国人メディア（米国3名・英国1名）のモニターツアーを実施**

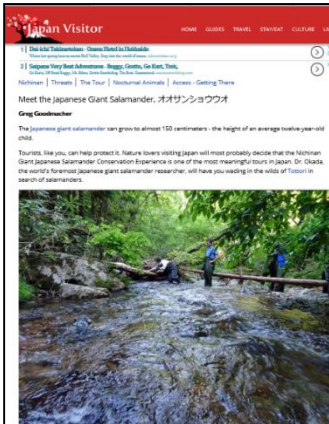
⇒高評価。SNS・記事等を通じて国外へPR

（掲載記事の例）Japan Visitor

<https://www.japanvisitor.com/japan-nature/salamander-tours>

豪州旅行雑誌 International Living 2018/7月号

- ・ **独・米のメディアより取材依頼。9月に米メディアが国立公園内他地域を含めて取材予定**



■**ツアー内容**：オオサンショウウオ研究者による生態調査への参加

（夕方～夜間の河川における捕獲調査）

■**実施体制**：地域住民・保護団体・日南町・環境省の協力の下、研究者・英国人ガイドで実施、インサイドジャパン社が協力

■**料金**：ツアー人数に応じて1人2万円～。千円/人は、保護団体を通して識別チップの購入や人工産卵巣穴の整備などの保全活動に還元

## ○入域料等の推進

各地での入域料導入検討の推進に向け、入域料等の先進事例の分析、導入のための事業手法や課題を整理し、H30年度内にとりまとめを行う。

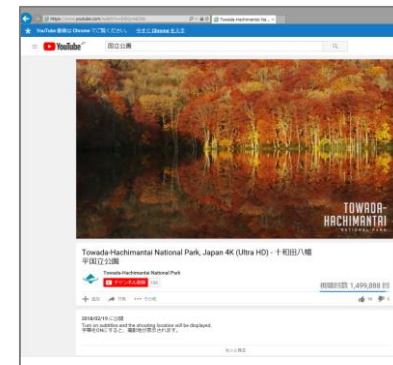
## ⑧ プロモーション

### ○ SNSの活用、多言語・外国人目線での発信

- ・ 国立公園公式SNS（インスタグラム、Facebook）において、英語を母語とした者により、平日は毎日情報発信。  
一般ユーザーによる国立公園の写真投稿も呼びかけ。
- ・ 10月に大山隠岐国立公園におけるインスタミートを実施予定。
- ・ 中国向けに微博（ウェイボー※）の発信を準備中。

※中国圏で最大のSNS、twitterとFacebookの機能を併せ持つミニブログ。

- ・ 十和田八幡平国立公園において、youtube動画を活用した広告の配信等を実施。今後他公園においても実施予定。  
-十和田八幡平国立公園動画 約150万回（H30.7末現在）
- ・ 阿蘇くじゅう国立公園のプロモーション動画を作成、SNSのほか、福岡・熊本・大分空港で上映。
- ・ JNTOのSNSにおいて、国立公園動画を順次配信。
- ・ ドローン等を活用した国立公園の映像を継続的に実施、二次利用可能な素材として配信。 ※<http://archives.natureservice.jp/>



### ○ 国立公園一括情報サイトの構築

- ・ JNTOと連携し、国立公園の魅力の紹介、モデルコースの提案から体験型アクティビティ等の予約までの導線も確保した、国立公園の一括情報サイトの構築を検討中。1 2



国立公園別訪日外国人利用者数推計値等

当推計は、観光庁「訪日外国人消費動向調査」の調査票情報を利用し、算出したもの。  
 「訪日外国人消費動向調査」は国籍・地域毎に回収目標数の抽出率が異なるため、母集団構成に合わせることを目的として、平成28年より、四半期別および国籍・地域別ウェイトバック集計を行う方法に見直した。(平成27年分も再計算している。)

公園名	訪日外国人数									
	H27		H28		H29					
	推計実利用者数 *1(千人)	標準誤差率 (%)	推計実利用者数 *1(千人)	標準誤差率 (%)	推計実利用者数 *1(千人)	前年増減 (%)	標準誤差率 (%)	アジア系 (%)	欧米系 (%)	
1 利尻礼文サロベツ	5	31.6%	14	21.1%	10	-29.7%	26.9%	80%	20%	
2 知床	21	15.4%	28	14.5%	20	-27.2%	18.7%	98%	2%	
3 阿寒摩周	63	8.9%	58	10.2%	57	-2.4%	11.2%	94%	6%	
4 釧路湿原	34	12.0%	27	15.0%	39	44.1%	13.5%	79%	21%	
5 大雪山	64	8.8%	83	8.5%	60	-27.2%	10.9%	89%	6%	
6 支笏洞爺	688	2.6%	827	2.7%	901	9.0%	2.8%	95%	4%	
7 十和田八幡平	7	26.7%	22	16.6%	19	-14.4%	19.5%	95%	5%	
8 三陸復興	10	22.4%	16	19.2%	15	-4.5%	21.6%	85%	15%	
9 磐梯朝日	0.5	100.0%	4	39.4%	9	136.8%	27.4%	69%	9%	
10 日光	190	5.1%	241	5.0%	271	12.6%	5.1%	58%	27%	
11 尾瀬	-	-	2	53.2%	-	-	-	-	-	
12 上信越高原	214	4.8%	265	4.7%	323	21.7%	4.7%	84%	12%	
13 秩父多摩甲斐	19	16.2%	22	16.5%	10	-54.7%	26.7%	90%	10%	
14 小笠原	-	-	0	133.5%	-	-	-	-	-	
15 富士箱根伊豆	2,341	1.4%	2,577	1.4%	2,580	0.1%	1.6%	82%	13%	
16 中部山岳	338	3.8%	351	4.1%	382	8.7%	4.3%	62%	30%	
17 妙高戸隠連山	8	24.2%	6	32.5%	13	116.7%	23.4%	46%	22%	
18 白山	3	40.8%	1	66.3%	2	53.1%	68.3%	66%	34%	
19 南アルプス	-	-	1	93.6%	2	118.0%	57.2%	100%	-	
20 伊勢志摩	33	12.2%	61	9.9%	76	24.1%	9.7%	76%	14%	
21 吉野熊野	53	9.7%	59	10.1%	67	12.9%	10.3%	84%	16%	
22 山陰海岸	32	12.4%	50	10.9%	43	-13.1%	12.8%	65%	29%	
23 瀬戸内海	296	4.1%	310	4.0%	387	24.7%	4.3%	61%	27%	
24 大山隠岐	6	28.9%	14	20.8%	11	-21.8%	25.5%	71%	29%	
25 足摺宇和海	0.5	100.0%	5	35.4%	5	-2.8%	38.3%	46%	-	
26 西海	55	9.5%	74	9.0%	56	-24.7%	11.3%	58%	32%	
27 雲仙天草	28	13.2%	29	14.4%	25	-13.2%	16.8%	79%	11%	
28 阿蘇くじゅう	682	2.7%	675	2.9%	926	37.2%	2.7%	99%	1%	
29 霧島錦江湾	71	8.3%	79	8.7%	129	62.7%	7.4%	96%	2%	
30 屋久島	10	22.4%	17	19.0%	25	47.7%	16.8%	43%	14%	
31 奄美群島					6	-	35.0%	84%	16%	
32 やんばる					-	-	-	-	-	
33 慶良間諸島					-	-	-	-	-	
34 西表石垣	12	20.4%	14	20.8%	14	-1.5%	22.7%	51%	30%	
合計(選定された8公園)	1,052	-	1,150	-	1,488	29.4%	-	89%	7%	
合計(各公園計)	5,284	0.8%	5,932	0.9%	6,482	9.3%	0.9%	83%	12%	
合計(実利用者数)	4,902	0.9%	5,457	0.9%	6,001	10.0%	1.0%	85%	11%	
訪日外客数全体 *2	19,737	-	24,039	-	28,691	19.4%	-	-	-	

- …選定された8公園
- …年ごとの上位10公園
- …参考値 \*3

(推計値についての注意点)

\*1 推計実利用者数: 当該国立公園を訪れた実際の利用者数の人数。1人の利用者が同一公園内の複数地点を利用しても1人と数える。また、合計(選定された8公園)及び合計(各公園計)は、1人の利用者が2つの公園に訪れると2人と数え、合計(実利用者数)は、1人の利用者が複数の公園を訪れても1人と数える。千人単位で四捨五入している。

\*2 訪日外客数全体: 出典: 日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」 ※平成29年1月-10月の数値は暫定値、11月、12月の数値は推計値。

\*3 標準誤差率が30%以上の公園については、サンプル数が少なく信頼性が低いので、参考値とする。取り扱いには十分注意し、転載や二次使用する際には、信頼性の低い参考値であることを明記し、その旨を理解して使用すること。

※「慶良間諸島国立公園」及び「やんばる国立公園」は、「訪日外国人消費動向調査」の訪問地選択肢コードに該当する地点が無かったため、推計対象外。

※平成27年データの「尾瀬国立公園」「小笠原国立公園」「南アルプス国立公園」、平成29年データの「尾瀬国立公園」「小笠原国立公園」は、標本数が0(欠損)のため推計不可として扱った。

国立公園満喫プロジェクト有識者会議  
委員名簿

<敬称略・五十音順>

【学識者】

ロバート キャンベル（国文学研究資料館長）

わくいしろう  
涌井史郎（東京都市大学特別教授） ※座長

【観光関係者】

いししいたる  
石井 至（有限会社石井兄弟社社長）

えざききく  
江崎貴久（旅館海月女将、有限会社オズ代表取締役）

デービッド・アトキンソン（小西美術工藝社社長）

ほしのよしはる  
星野佳路（星野リゾート代表）

【ジャーナリスト・ライター】

のぞえ  
野添ちかこ（温泉と宿のライター）